

48 アドリアマイシン(ADR)心筋障害の核医学検査によるモニタリングの有用性

若杉茂俊¹, 長谷川義尚², 中野俊一²

(大阪府立成人病センター 第1内科¹, 同 RI科²)

ADR投与症例36例を対象として心プールシンチグラフィ(MUGA)と²⁰¹Tl心筋シンチグラフィ(MPS)を施行しADR心筋障害の核医学検査によるモニタリングの有用性について検討した。その結果, MUGAによる左室駆出率(EF)は, のべ74件中26件35%に異常低下(< 55%)がみられ, ADR投与量別のEF異常出現頻度は200 mg/m²以下投与群では8%(2/26), 200~400mg/m²では41%(11/27), 400mg/m²以上では62%(13/21)と投与量に応じて増加した。EF値と投与量との間にも直線的相関が認められた。一方, MPSでは, のべ64件中34件52%にとりこみの異常低下(defect score $\geq$ 100)がみられ投与量別のとりこみの異常低下出現率も200mg/m²以下で33%(6/18), 200~400mg/m²で50%(13/26), 400 mg/m²以上で68%(15/22)とEFと同様に投与量に応じて増加したが, EFに比べてとりこみの異常出現率は, より高率でEF正常例でも42件中26件62%に異常がみられた。しかし, ²⁰¹Tl defect scoreと投与量との間には直線的相関はなかった。MPSは心筋障害のsubclinicalな検出に, MUGAは心筋障害の重症度判定に有用である。

49 チアノーゼ性先天性心疾患でのTL-201心筋SPECT所見

水戸寿寿洋, 馬場清(倉敷中央病院
心臓病センター小児科)

先天性心疾患、とりわけチアノーゼを伴うものは心筋の線維化をはじめとする心筋障害を合併しやすい。今回われわれはこれらチアノーゼ性先天性心疾患児に対してTL-201心筋SPECTを施行し、心筋の状態について検討した。対象はフォロー四徴9例をはじめとする心内修復術を施行していない12例で、年齢は2才から17才の間にあった。このうち4例ではplanerイメージもあわせて検討した。灌流欠損(PD)は12例中7例に認められた。いずれも肺動脈閉鎖を合併した症例で、平均年齢は9.9 $\pm$ 4.0才であった。一方、PDの見られなかった5例の平均年齢は2.8 $\pm$ 1.6才で、前者の年齢が有意に高かった。SPECTとplanerを比較できた4例ではどちらの方法でもPDが3例にみられたが、SPECTでは複数の部位にPDが見られる場合でも、planerのイメージでは他のタリウム摂取の高い部位にマスクされるものがあった。TL-201心筋SPECTはチアノーゼ性先天性心疾患の心筋状態の評価に有用であると考えた。

50 先天性冠動脈疾患のTl-201心筋イメージング所見 : 特に手術前後の比較について

小野安生¹, 木幡達¹, 吉林宗夫¹, 神谷哲郎¹, 西村恒彦², 高宮誠², 八木原俊克³, (国立循環器病センター小児科¹, 同放射線科², 同心臓血管外科³)

先天性冠動脈疾患7例においてTl-201心筋イメージング(TMI)を行った。対象は、左冠動脈肺動脈起始2例、左冠動脈開口部狭窄1例、左冠動脈動脈閉塞1例、先天性冠動脈瘤(CCA)1例および冠動脈瘤(CAF)2例である。全例に安静時と負荷時(Dipyridamle)にTMIを行い、手術を要した5例に対しては術後1カ月時に負荷時TMIを行った。負荷時TMIの再分布像は2時間後に撮像した。

安静時と負荷時TMIの比較では、CCA, CAF以外の4例で、負荷時TMIにて灌流欠損(PD)を認めたが、安静時TMIでは4例中2例で異常を認めなかった。術前後の比較を行った5例においては、術前よりPDの認められた4例全例でPDの改善がみられたが、僧帽弁閉鎖不全合併の2例では、術前後とも再分布像において心尖部および前側壁にPDの持続を認めた。

TMIは、これらの疾患における心筋虚血の評価および術後心筋状態の評価に有用であった。

51 川崎病の冠動脈狭窄形態と心筋Tl-201再分布の関連

近藤千里, 太田淑子, 吉岡明子, 牧正子, 広江道昭, 日下部きよ子, 重田希子, (東女医大放射線科)

川崎病後に狭窄性冠動脈病変を有した11例について、心筋Tl-201再分布所見と冠動脈狭窄形態の関連を検討した。11例が有した狭窄枝数は13枝および左主幹部(LMT)2枝の計15枝であり、狭窄形態は閉塞(OC)は8枝とLMT1枝、セグメント狭窄(SS)3枝、局所性狭窄(LS)は2枝とLMT1枝であった。心筋イメージングはジピリダモール負荷を併用して実施し、負荷直後、4時間後再分布、洗い出し率についてSPECT短軸断面のBull's eye表示を行った。再分布なし(C)、一部再分布(T/C)、完全再分布(T)と狭窄形態との関係では、LSでは灌流領域がすべてTであったのに対し、SSではCまたT/Cであり、OCではC, T/C, Tのいずれも存在した。以上よりLSの灌流領域はSSに比し心筋のviabilityが比較的良好であり、OCでは多様性を呈する可能性が示唆された。